



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2023～2024年度 RI会長 ゴードンR.マッキナリー
RIテーマ 世界に希望を生み出そう

クラブテーマ「芽生えた双葉を育て、希望の花を咲かせよう！」

会長 岡良森 幹事 篠木喜世

第1547回例会 2023.11.24(金)晴

司会: 鈴木俊也君

ロータリーソング「それでこそロータリー」指揮:高村勝則君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 岡良森君



今年度の国際奉仕委員会行事、カンボジア王国への井戸設備贈呈事業、無事に実施することができました。大村委員長はじめご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。プログラムの関係もあり、今週と来週の2週に渡り報告する予定ですのでよろしくお願い致します。

本日は、私のゲストとして、宮澤友一さんをご招待しました、元当クラブ会員のご子息様です、よろしくお願い致します。

先程、当クラブの規定に基づく指名委員会を開催し、次年度以降の体制作りが始まりました。関係する方々のご活躍を祈念申し上げます。

皆さんのテーブルにチラシを配布させていただきました。前にもご紹介した「三島ゆらゆら祝祭管弦楽団」のコンサートのご案内です。この楽団は、コンサート毎に各種団体や個人のお祝い事をコンサートで紹介してくれています。裏面の1月14日公演では、当クラブパスト会長の渡辺照芳さんが黄綬褒章を受章されたことや当クラブが35周年を迎えたことが紹介されます。ユーモアのある楽団です。興味のある方はお出かけいただき、地元の音楽を育てていただければ幸いです。

本日の「乗り鉄」ネタは、モノレールです。当然ですが鉄道です。日本で最初に営業運行したのは東京上野動植物園線で、営業距離300メートル、所要時間一分半です。1957年に開通しました。令和元年に終了しております。本格的な営業としては東京モノレール羽田空港線(1964年開通)でおそらく皆さんも乗車経験があると思います。モノレールって、なんとなくクワクワしますね。簡単な定義としては、一本のレール若しくは桁で人・物を運ぶものということになります。跨座型と懸垂型が主なタイプです。私の好みは懸垂型モノレールです。この懸垂型モノレールの最初は湘南モノレール、大阪万博の年に開通し現在も運行しております。大船まで在来線で行き、そこから江ノ島に行くことができます。そして、懸垂型モノレールの世界一の営業距離を誇るの、千葉都市モノレールです。営業距離は15.2キロあります。ギネスに登録されております。線路の上に乗る感じがしない鉄道、どうぞお楽しみください。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

宮澤友一さん(岡君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	33/37	89.00%	35/37	94.60%
今回	23/36	63.90%	会員総数	38名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

加藤(正)君、小林君、篠木君、杉橋君、土屋(和)君、土屋(巧)君、服部君、三輪君、矢岸君、山口(雅)君、吉村君、米山君、渡辺君
(*出席免除会員の欠席者 遠藤君 片野君)



スマイルボックス

大村典典君:11/16～11/20国際奉仕事業でカンボジアへ行って参りました。皆様のカンパ49000円は式典用に当てさせていただきました。ありがとうございました。

山口辰哉君:カンボジア国際奉仕事業、参加された皆さまお疲れさまでした。カンボジア激動の悲惨な時代を少しだけ見学してきました。歴史は大事です。

藤川智徳君:カンボジアへ行って参りました。すばらしい経験をさせて頂き有難うございました。

野村諒子君:せせらぎ三島RCの社会奉仕事業に協力してください。皆様のあたたかいお気持ちを届けましょう。食料だけでなく調味料、お菓子なども喜ばれます。よろしくお願い致します。

加藤貴康君:服部先輩に教えて頂いた靴・合鍵のお店が安くて早く最高でした。スマイルします。

中村徹君:今週運転免許証更新のために、自動車学校で75歳以上の高齢者が受験する認知機能検査を受け、何とか合格しましたので、スマイルします。現在孫二人、保育園や塾の送り迎えが、私の日課の一つです。私も既に80歳、83歳までは、事故の無いよう、同乗する孫の為に、安全運転に心がけたいと思います。



【旧ヴァンジ彫刻庭園美術館の今後について】

○ヴァンジ彫刻庭園美術館(長泉クレマチスの丘)

2002年4月に開館したイタリアの彫刻家ジュリアーノ・ヴァンジの作品を集めた世界唯一の個人美術館です。四季折々のクレマチスの花が咲き誇る庭園も人気の、複合的な文化空間として親しまれてきました。

しかし、現在、ヴァンジ彫刻庭園美術館は閉館されています。ヴァンジの運営法人は2021年10月、新型コロナウイルス禍などによる経営難を理由に、県に経営支援や無償譲渡を申し出ました。

県は当初、美術館の継続を検討しましたが、所蔵品の権利関係の課題もあり継承を断念。地元負担や活用コンセプト明示を求めた有識者検討会の意見を踏まえ、22年12月に「芸術活動の交流拠点」とのコンセプト案を県議会に示したが、理解が得られず、23年度当初予算への計上を見送った経緯があります。

県と地元5市町(沼津、三島、裾野、清水、長泉)は23年2月に構想検討会議を設立し、同美術館跡地と複数施設の一体的な活用を掲げた「クレマチスの丘広域的活用構想案」を同年7月の県議会6月定例会文化観光委員会で提示。市町や民間文化施設との連携による「東部・伊豆地域アートフォーラム」(仮称)を設立し、跡地を東部・伊豆の文化推進拠点にする意向をまとめました。構想は以下の通りです。

○東部・伊豆地域文化ゾーンの構築に向け、県、市町、民間文化施設、産業界などが参画する文化振興のネットワーク組織を立ち上げる考えです。

○想定される事業内容は地域観光芸術祭開催(3年に1回)、県民文化活動促進事業、文化情報発信などです。

※ 地域観光芸術祭の国内の成功例「瀬戸内国際芸術祭」(香川県直島町・小豆島町(ほか)瀬戸内海に浮かぶ島と港を舞台に、3年に1度開催される、アート作品を通して島の魅力を表現する現代アートの祭典。2019年回では、107日間で約118万人が来場、経済波及効果は180億円。)「アートによる地域の活性化を目指す地域」として各地からの視察など、地域の価値創出とイメージアップに貢献。まちなかでの創作・展示を行うことで、地域住民と観光客との接点が地域活動の活性化や景観まちづくりを誘発し、相乗的なまちづくり効果が発生。2022年度は、直島町の人口3,016人に対し、移住者は104人。

○ヴァンジ彫刻庭園美術館施設の活用

(1)概要

ヴァンジ彫刻庭園美術館施設を新たな県の文化施設にリニューアルし、アートフォーラムの主な活動拠点として活用することを想定しています。

(2)想定される活用方法

○県事業のサテライト実施

・県立美術館・ふじのくに地球環境史ミュージアムの企画展、SPAC公演等

○新たな文化事業の実施(アートセンター機能)

・障害者芸術の推進、文化教育事業、県民やアーティストの創作・発表の場等

○市町事業の実施の場

・文化事業、学校授業、子育て支援事業、市町イベント等

○民間活力による多目的利用

・レストラン・ショップ運営 ・講演会等のスペース貸し等

③施設管理・運営方法案

民間活力を取り入れた施設運営を検討(運営権、指定管理制度等)していく。

しかし、県は10月に来年度の当初予算編成要領を示しましたが、財源不足額は524億円と多額です。○議会の意見は割れています。

① 民営化による行革と逆行すると慎重な意見

② がんセンター、ファルマナレー、トヨタなど世界から注目される地域に文化の拠点は必要

今後どうなるか、

【東アジア文化都市のレガシー施設】

ところが、その後、同美術館から地理的に近い三島市内の国有地に東アジア文化都市のレガシー(遺産)拠点を置きたいとする知事の発言が飛び出しました。

川勝知事は、10月、経済界との懇親会の中で、「三島市に東アジア文化都市の発展的継承センターを置きたい。土地を物色している」とした上で「国の土地を譲ってもらおうと詰めの段階に入っている」と具体的な発言をしました。

○県議会が問題と思ったポイント

・旧ヴァンジの議論に整理ができていない状況

・給与返上の際「議会とのコミュニケーションを今後とっていく」発言の直後

この発言をめぐって県議会の自民党会派から「議会軽視ではないか」と指摘する声が上がった。これに対し川勝知事は「(発言は)ひとつのアイデアにすぎませんので、何も決まっていけないのが現状」「県議会の皆さまとコミュニケーションを図る努力をしていく」と答弁した考えは変わっておりません」と答えました。事態は収まらず、閉会中審査が開かれる事態にまで発展しました。その中で、委員からは「詰めている」という知事の発言は「虚偽説明なのではないか」など厳しい質問が相次ぎました。

知事の「詰めの段階」発言をめぐり、22日開かれた県議会総務委員会。国有地を管理する東海財務局の職員が招致されました。

その説明から

国有地をめぐる県と東海財務局との打ち合わせは過去3回行なわれていますが、その中で、県は繰り返し構想段階であることを伝えていました。また、知事が発言した「東アジア文化都市の継承センター」という内容は一度も出ず、「詰めの段階」とはほど遠い状況であることが分かりました。

これを受けて、総務委員会は「到底、詰めの段階ではない」として、川勝知事の発言の訂正を申し入れることを決めました。

【12/8一般質問 登壇します】

この東アジア文化都市のレガシー関連の質問を知事にぶつけます。その他にも

・旧総合健康センター改め静岡県健康福祉交流プラザ、治水対策、食を活用した地域づくり、スポーツを活用した地域活性化、観光振興策などについても質問をする予定です。

カンボジア井戸設備贈呈事業報告

会長 岡 良森君

当クラブの30周年から始まりました国際奉仕委員会主要行事、カンボジア王国の子供たちへの教育環境整備事業として、井戸設備贈呈を無事に実施することができました。地区からの補助金もあり、立派な井戸設備をタケオ県内の小学校にプレゼントすることができました。カンボジア政府からも交通省航空局幹部のタン様や数年来お世話になっております田井名誉領事もご同席いただき、華やかな贈呈式を行うことができました。当クラブ米山ガバナー補佐は、地区としてのスピーチもしていただき、今回地区から参加していただいた望月さんからも立派な報告ができますとお声掛けいただきました。また、今年度も三島RC山岡さんが同行いただき大変お世話になりました。

毎回感じることはありませんが、贈呈式で見る子供たちのきれいな目・屈託のない笑顔、そして地域の人達の感謝の気持ちが全面に出た微笑ましく柔らかな表情を今回も体感することができました。私には、RIの昨年度のテーマの“イマジンロータリー”と今年度のテーマである“世界に希望を生み出そう”がしっくりきています。連続性を感じます。

奉仕の先に見える子供たちの笑顔を想像した次の奉仕を子供たちの希望となるよう実践する。とても良いことだと考えております。残念ながら、円安等の要因もあり、十分な予算をもって実施することが微妙なこの頃ではありますが、クラブのサイズにあった奉仕活動がこれから先も続けていければと思います。

国際奉仕委員長 大村典央君

国際奉仕委員会の継続事業として、令和5年9月、スラスランバンティ小学校(住所:ペイチエンテリア村、ポエントラエンカンチエン区、サムロン市、タケオ州)に井戸を設置しました。

元々、当小学校に井戸はありましたが、掘削深度が浅く、泥で濁った水しか供給できませんでした。当クラブが寄贈した井戸は、50メートル以上掘削し、透明で大腸菌未検出の水を提供することができます。この井戸は、小学校の生徒の他、村の住民の生活用水に利用されます。

令和5年11月17日、当小学校で井戸の寄贈式典がおこなわれました。当クラブメンバーおよびロータリー2620地区の役員が出席したほか、カンボジア国名誉領事の田井進氏(仙台領事館領事)、カンボジア国交省航空局政務官のTAN SOPHONDARITH氏も参列されました。

当小学校の校長先生、副校長先生、生徒そして村住民から大変な歓迎を受けました。

式典終了後、滞在先のプノンペンホテルに戻り、田井名誉領事、TANさん、校長先生のほか、プノンペンに事務所を構える認定NPO法人学校を作る会(JHP)所長の辰川さん、カンボジアサテライトクラブメンバーの西村さんらと共に、懇親会をおこないました。大変和やかな雰囲気、日本とカンボジアの友好関係を再確認できました。

大変有意義な時間を過ごすことができました。

ROTARY NEWS

ブラジルのロータリークラブが全国的なポリオ予防接種キャンペーンを展開

新型コロナウイルスのパンデミックがもたらしたのは、悪いことばかりではありません。ブラジルでは、ポリオ予防接種を呼びかける新たなキャンペーンの誕生につながりました。

パンデミックの中、ブラジルでは全国でワクチンへの懐疑が広がりました。「ワクチンは安全」というメッセージを広げる必要があると考えたブラジルのロータリー会員、アントニオ・エンリケ・バルボサ・デ・バスコンセロスさん(フォルタレザ-アラガジノ・ロータリークラブ所属、現国際ロータリー理事)は、証拠に基づく情報発信キャンペーンを提案。こうして、世界保健機関(WHO)や汎米保健機構からの事実や統計を人びとに伝える「情報は命を救う」キャンペーンが立ち上げられました。

このキャンペーンには大きな反響がありました。バスコンセロスさんはこう振り返ります。「キャンペーン開始イベントでは、収容人数500人の会場が数分で埋まってしまいました」

バスコンセロスさんのチームは、キャンペーン用の雑誌広告、看板、バスの窓やバス停に貼るステッカー、ラジオ広告、ウェブサイト、ソーシャルメディア用グラフィックなど、各種メディアで使える広告をデザインし、国内のクラブに配布。多くのクラブは、これらの広告を地元で出すために、募金活動やパートナー団体を通じて広告料を捻出しました。

バスコンセロスさんと仲間たちはその後、ポリオ予防接種にも同じアプローチが取れることに気づきました。ブラジルでポリオ症例が最後に記録されたのは1989年ですが、接種率の低下によりポリオ再発の危険性が高まっています。同国保健省によると、2022年の国内の5歳未満の予防接種率はわずか72%。このため政府は、5歳未満の子どもの接種率を90%~95%にすることを目標に掲げています。

バスコンセロスさんは、ロータリー公共イメージコーディネーター、ポリオ担当部スタッフ、ロータリーアウトとインターアウトの会員、『Rotary Brasil』誌のスタッフから成るチームを編成して、ポリオに関する新しいメッセージを作成しました。「ともにポリオと闘おう」と銘打つこのキャンペーンでは、新型コロナのキャンペーンで使った広告に加え、風船とTシャツに使うデザインも作成し、キャンペーンのウェブサイトとソーシャルメディア用グラフィックを駆使してオンラインでもメッセージを広げています。

「ともにポリオと闘おう」キャンペーンの9月の開始イベントでは、対面式で2,000人近く、オンラインで800人以上が参加。「情報は命を救う」キャンペーンを上回る反響がありました。「毎日のように、全国からイベントを紹介した多くの記事や写真が送られてきます」とバスコンセロスさん。

「情報は命を救う」キャンペーンと同じく、「ともにポリオと闘おう」キャンペーンでも、多くのロータリークラブが地元のパートナーシップを通じて資金を集め、無料で広告を出すことに成功しています。「市内のクラブは、2,000枚のポスターを病院や学校、保健センター、バスなどに無料で掲示しました」とバスコンセロスさんは言います。

国際ロータリーブラジル事務局のアウレア・ドス・サントスによると、キャンペーン用広告は「クラブがウェブサイトからダウンロードして、手を加えずにそのまま使える」ものです。

世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)の創立メンバーであるロータリーは、1988年のGPEI創設以来、世界のポリオの症例を99.9%減らす合同の取り組みに参加してきました。ロータリーとパートナー団体は、これまでに122カ国で30億人以上の子どもにポリオの予防接種を提供しています。



スマイルボックス

杉山寿美子君:せせらぎ三島ジャンパーご注文有難うございます。皆様に袖を通して頂けます事を楽しみにしております。感謝です。

野村諒子君:涼くなってきました。10月21日、13時よりポリオワクチン寄付キャンペーン事業を行います。皆さん参加して下さい。ヨーカ堂入口でお客さんに寄付のお願いをします。ジャンパーを着て来て下さい。詳細は又ご連絡します。

大川泰君:いよいよ今月27日・28日・29日日本商工会議所関東ブロック大会が三島で開催されます。4000人規模の事業、そしてYEG卒業最後の事業です。何かとご迷惑をお掛けする事があるかもしれませんが宜しくお願い致します。

米山晴敏君:良いジャンパーが出来ましたね。スマイルします。

加藤正幸君:パッケージプラザカウでは10/7(土)まで秋のビッグセールをやっています。今回大判チラシになっています。ご利用お待ちしております。三島バルも明日までやっています。三島の街の賑わい応援しましょう。

片野誠一君:休みが多くてすみません。